



IGAS 2007

International Graphic Arts Show
Tokyo, Japan / Sept. 21-27, 2007

プリントメディアの未来—信頼と進化

国際印刷機材展としては第2回目となるIGAS (International Graphic Arts Show) 2007が9月21日から27日の7日間、東京ビッグサイト東西全館を使用して開催される。今回のキャッチフレーズは「プリントメディアの未来—信頼と進化」。展示規模は、出展者数539社、4,857小間で、前回のIGAS2003と比べ、約100社、400小間を上回る規模となる。バーコード付き入場券の採用、会場内循環バスの導入、メインゲートを西館に設ける—など、新たな試みが盛り込まれる他、主催者特別企画や同時開催のイベントも多彩に展開される。主催団体である印刷機材団体協議会（小森善治会長）では12万5,000人の来場者を見込んでいる

9月21日から27日の7日間、東京ビッグサイト東西全館を使用して開催

アジア地域における世界4大国際展の一つとして高い評価を得たIGAS2003。そのキャッチフレーズは「未来のプリントメディア」だったが、「印刷業界は『未来』と呼んだ領域にすでに踏み込んでおり、『信頼され、進化する』ことが必要である」という観点から、今回のIGAS2007のキャッチフレーズを「The Future of the Printing Media—Reliability & Progress (プリントメディアの未来—信頼と進化)」とした。展示規模は、出展者数539社、4,857小間となり、前回と比べ、約100社、400小間を上回る規模となる (IGAS2003は435社、4,454小間)。

パネル等の英文表示の他、海外からの視察ツアーの増加、JTBとの提携によるホテル・乗車券の斡旋、米国 (NPES)、中国 (PELAC)、伊国 (ACIMGA)、韓国などの

海外工業会の製品紹介などにより、これまでIGASが目指してきた「国際化」を、今回もさらに進めたい考え。

国内外の広報活動は、主要国際機材展への小間出展やIGASパーティの開催だけでなく、先月は、国内印刷業の現状説明やIGAS2007の概要を説明する海外記者招待ツアーも開催。これらの広報活動を通じて、12万5,000人 (海外からは60カ国1万2,000人) の来場者を見込んでいる。

また、新しい試みとしては、バーコード付き入場券の採用の他、臨海線国際展示場駅から西館ゲート前、東館3・6ホール前、東1ホールを回る無料循環バスの導入 (5分間隔)、企画展示のある西館にメインゲートを設置する—などがある。

とくにバーコード付き入場券の採用では、



入場証付き招待券に同封のバーコードラベルから選択した業種ラベルを貼り付けて入場するといった形をとることで、従来の登録作業を無くし、入退場をスムーズに行なうことができるとしている (個人情報とは取らない)。これを各ゲートで係員がバーコード読取機で読み込み、入場者数を集計する。なお入場料は一般で当日券1,000円、通し券2,000円、事前登録で1,000円 (通し券のみ)。

主催者特別企画や同時開催のイベントも多彩に展開

■主催者特別企画

会期中に主催者特別企画として、以下のイベントが開催される。

【国際印刷シンポジウム】

「アジアの印刷 その現状と将来」と題し、躍進するアジア主要国の印刷事情を各国一流大学教授らが総括する。

・日時：9月25日 (火) (シンポジウム=10時30分~16時40分、懇親会=16時50分~18時30分)

・会場：東京ビッグサイト 会議棟

・定員：100名

・受講料：一般1,000円、学生500円

・講師：タイ チュラロンコン大学 Aran Hansuebsai准教授 / インド アナ大学 Lalitha Jayaraman教授 / 韓国 慶北大学 Yeong-Ho Ha教授 / 中国 北京印刷学院 PU Jia-Ling教授 / 日本 千葉大学 三宅洋一教授

【先進技術展示】

プリントメディアの未来を担う先端・先進技術を、全国25の大学、研究機関が展示。分野は、画像処理、画像認識、カラーマネジ

メント、超微細加工、機能性材料、ディスプレイパネル、ホログラフィー、ウェブハンドリング、環境化学、安全設計など。先進技術の見学、研究機関と業界とのコミュニケーション、産学連携の場として企画。

【VRシアター上映】

印刷技術を進化させ、デジタル映像技術を活用した「VRシアター」を上映する (凸版印刷協力)。

・上映場所：西館1Fアトリウム
・スクリーンの大きさ：300インチ
・座席数：60席